

16 福島県内で排出される鶏ふん堆肥を原料にした新肥料の開発 (片倉コープアグリ株式会社)

東北地域

2023年11月時点

鶏ふん

ペレット等

広域流通

- 片倉コープアグリ株式会社は、JA全農福島と協力して福島県内で排出される鶏ふん堆肥を原料にした新肥料「エコマスターシリーズ」を開発。

■国内資源の種類

発酵鶏ふん
米ぬか（登録肥料：混合有機質肥料の一部）
※エコマスター077、
エコマスター水稲一発555、
エコマスター園芸823
の3銘柄同

■肥料の種類・肥料名称・作物

- ・エコマスター077
混合堆肥複合肥料
水稲基肥
- ・エコマスター水稲一発555
指定複合肥料（エコマスター077+
被覆尿素）
水稲（一発体系）
- ・エコマスター園芸823
混合堆肥複合肥料
キュウリ、トマト、ナス、ピーマン、
アスパラガス 等

■保証成分量（%）、特徴等

新発売!! 片倉コープアグリのエコマスターシリーズ
堆肥入り肥料

エコマスター水稲077	エコマスター水稲一発555	エコマスター園芸823
●堆肥使用割合約40% ●マルメット状で側条施肥にも対応 ●20kgポリ袋	●堆肥使用割合約30% ●側条施肥にも対応 ●Jコート配合でチッソの肥効が後半まで持続 ●20kgポリ袋	●堆肥使用割合約50% ●ペレット状のため機械散布も可能 ●低PK銘柄のため、リンサン・カリ過剰の圃場に適します ●15kgポリ袋
保証成分(%) チッソ 10 リンサン 7 カリ 7	保証成分(%) チッソ 15 リンサン 5 カリ 5	保証成分(%) チッソ 8 リンサン 2 カリ 3

供給 片倉コープアグリ株式会社 製造 KCC 片倉コープアグリ株式会社

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

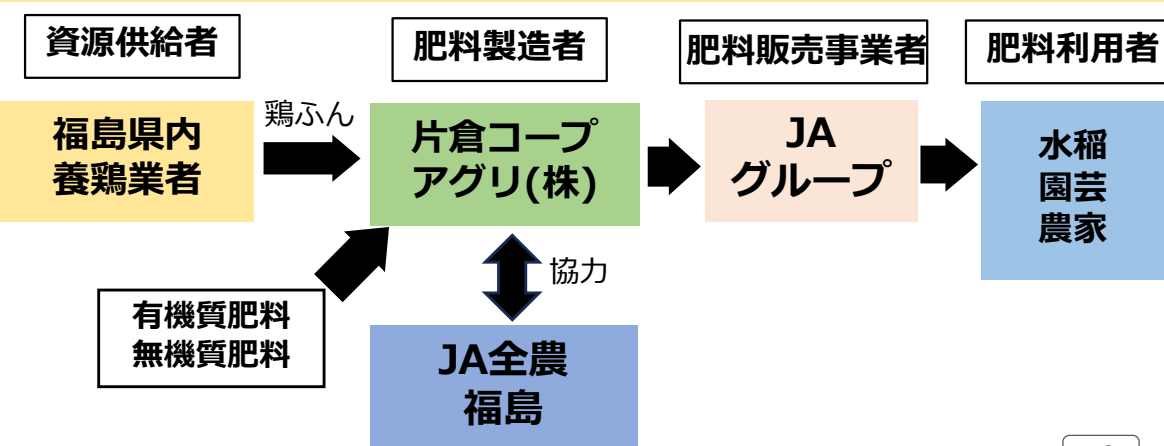
取組の経緯

- ・県内の養鶏業者より排出される発酵鶏糞粉品の利活用を図るため、肥料利用の検討を開始（2022年6月～）。

取組の内容

- ・JA全農福島および片倉コープアグリ(株)にて対象作物および成分内容を検討すると同時に、同大越工場にて試作を重ねペレット化が可能であることを確認（2022年7月～8月）。
- ・輸入化学肥料原料の使用を30%低減することを念頭に、発酵鶏糞の使用は製品重量比30%以上を確保することとし、水稲およびPK過剰傾向にある施設園芸向けを対象作物とした。
- ・価格については県内で既に流通している銘柄（同一N成分、P,Kは近似）と比較して、1袋あたり1割程度安価となることを目指した。
- ・県内各JAのR6年作春肥予約注文書の作成検討が開始される時期に合わせ、2023年7月にエコマスターシリーズ3銘柄を上市。JA全農福島、片倉コープアグリ(株)では、試験栽培の生育経過が慣行栽培と遜色ない点を確認し、県内4JAにおいて採用・掲載となった。
- ・2023年10月、JA全農福島において、発売開始のプレスリリースを実施、2023年11月～製造・出荷開始。

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

- ・JA組合員への更なる周知および利用者の拡大
- ・継続的に安定した原料品質確保および他の資源供給者の模索
- ・製品歩留まりの向上およびコスト圧縮
- ・他の畜種堆肥（豚ふん堆肥・牛糞堆肥）を使用する製品の検討
- ・他県への供給

